

「アツき激走！ 4時間耐久」



見事連勝！！ つかんだか #15



惜しい！次は優勝だ #21



開幕戦の勝者は今回3位 ランクも3位 #11



レース巧者今回は4位 #70

2015K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第3戦が愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。この第3戦は例年4時間耐久となっており、さらに激しい戦いが繰り広げられる。台風11号は去り、スタート時から猛暑というまさに灼熱バトルの開始だ。

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクロズドクラス）

今年に入ってからエントリーが盛況なこのクラス、開幕戦の10台に続き、第2戦は9台、そして4時間戦にも10台がエントリー、充実した争いが楽しめる。第2戦では#15「シャトー・ラ・フィット」(GE型)が待望の初優勝、さまざまな車種が活躍できるこのクラスの魅力が改めて証明された。今回もGD/GEフィット、EKシビック、ヴィッツNA/NBロードスターなどバラエティに富んだマシンたちが集結。

■予選

予選トップは#15「シャトー・ラ・フィット」1'04.600が開幕から連続クラストップ。タイヤを新調し連勝を狙う。予選はその狙いが的中しクラス唯一の4秒台を記録、ウェイトの影響も感じさせないタイムをマーク。

2番手は#21「ZEST ルブロススターレット」1'06.232、こちらも狙うは初優勝。3番手は開幕戦の勝者#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」1'06.669、4番手は1'07.2682かなり速くなってきており注目。

5番手#96「TeamKRS フィット」1'07.566、シビックレースの猛者が手がけるフィットが開幕戦以来の登場。6番手#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'08.053前戦では予選が振るわなかったが今回はまずまず。7番手#42「A.C.Etロードスター」1'08.090こちらはNB型だ。

8番手#46「ボイズヴィッツアンビシャス」1'08.797、今大会唯一のリッターヴィッツ。9番手#70「トータルセブンシビック GT」1'09.540、昨年のチャンピオンチームこのところ予選は振るわないが決勝ではさすがの走りを見せられるか。

10番手は#45「剛式レーシングフィット」1'09.888とこのクラス全車が10秒を切るタイムで決勝進出。

■序盤

戦前の予想通り#15「シャトー・ラ・フィット」と#21「ZEST ルブロススターレット」の争い。それに#70「トータルセブンシビック GT」が絡むという実力派チーム同士のバトルが展開。

中団はもう一台のトータルセブン#77「トータルセブンロードスター」や#96「TeamKRS フィット」、#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」とったあたりが競り合い、さらに#50「MSCJ 奈良ロードスター」、#42「A.C.Etロードスター」対決。

#45「剛式レーシングフィット」だが、リヤのブレーキトラブルでスタート後30分弱からピットでの作業に入っている。再コースインできるか。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤でも#15「シャトー・ラ・フィット」と#21「ZEST ルブロススターレット」の争いは続く、速さのある#15「シャトー・ラ・フィット」だが、フロントタイヤへの負担は厳しく、”後半はきついかも”とチーム関係者も少し心配そう。

一方、#21「ZEST ルブロススターレット」は後半勝負と読んでの、ドライバーローテーションで追い込みをかける作戦のようだ。

3番手争いも激化、#96「TeamKRS フィット」、#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、トータルセブンの2台が激しく3位を争う。このなかから抜け出すのはどのチームか。

下位でもロードスター対決や、#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」の粘りの走りなど4時間戦にふさわしい各チームの総合力が問われる戦いが続く。

残念なのは#45「剛式レーシングフィット」、懸命の作業にもかかわらずリタイヤとなってしまった。

■終盤

レースものこり1時間、トップを行く#15「シャトー・ラ・フィット」142Lap、1Lap差で#21「ZEST ルブロススターレット」。少しあいて3番手は#96「TeamKRS フィット」138Lap、4番手#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」137Lap、#70「トータルセブンシビックGT」136Lap、#77「トータルセブンロードスター」も同じく136Lapと表彰台をかけた終盤のバトル。

その下は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」129Lap、#42「A.C.Etロードスター」119Lap。

#50「MSCJ 奈良ロードスター」もトラブル発生で112Lapを走ったところでピットに入っている。



GD 型も注目 #96



シビックとのアベック表彰台を目指す #77



少しパワー不足か #46



初参加で完走 #42



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

タイヤの摩耗に苦しんだ#15「シャトー・ラ・フィット」だが、ライバルの追撃を振り切って 183Lap で見事 2 連勝。2 位は#21「ZEST ルブロススターレット」、1Lap 及ばず前戦に続き 2 位。

大混戦の 3 位争いは#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」が 181Lap まで伸ばして、滑り込み。4 位の#70「トータルセブンシビック GT」、5 位の#96「TeamKRS フィット」まではそれぞれ 1Lap 差となっており、4 時間走っての差はわずかだったという混戦ぶりが印象的。

6 位は走りっぷりが板についてきた#77「トータルセブンロードスター」、7 位は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、1 回少ないピットとはいえさすがにリッターマシンでは厳しいか。#42「A.C.Etロードスター」119Lap は初参加ながらしっかりと規定周回数をクリア。

50「MSCJ 奈良ロードスター」と#45「剛式レーシングフィット」はリタイヤ。これでシリーズ争いは今回の上位順となり、#15 が 65P #21 が 50P、#11 が 44P。

■総評

#15「シャトー・ラ・フィット」が見事連勝を飾ったが、同時に#21「ZEST ルブロススターレット」と#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」の追い込みもさすがあった。

フィットはやはりフロントへの負担が大きく、その対応でキャンバーを大きく取ったセッティングのようで、後半戦は路面温度が下がったにも関わらず、6 秒台に落ちることがしばしば。このあたりはマシンが速くなってきたことの裏返しでもあり次にどんな手を打つか注目される。

一方追い上げた 2 台はともにどちらかというと軽量マシン、後半勝負という耐久の醍醐味を存分に魅せてくれた。#21「ZEST ルブロススターレット」の初優勝も期待される。

フィットといえば GD 型フィットも今回は 2 台が出走、#45 はリタイヤに終わったが#96「TeamKRS フィット」が 5 位に入りポテンシャルを見せた。レース中の最速 Lap は 6 秒台中盤とまずまずの速さ、今後も注目マシン。

さらにロードスターも増えてきており、同型車のライバルとのバトルという楽しみ方もできるようになってきた。



完走とどかず #50



こちらは無念 #45





久々の優勝は総合優勝 #110



わずか 16 秒差 #87



振り切って表彰台 #62



今回は表彰台に一步とどかず 4 位 #450



今大会唯一のインポートカー 5 位 #106

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロードクラス）

開幕から連勝で40Pとシリーズ首位をガッチリと守る#87「IDI NUTEC SYCシビック」。それを27P同士で追いかける#62「WN ワコーズCLNシビック」と#450「トルネオの大冒険」という序盤の構図。

それに#110「アライメント浜松チーム」をはじめとする強豪・有力チームが参加して毎回のごとく激しい戦いが繰り広げられる3Cクラス、今回は初参加となる#2「MorixホワイトナッツNB8」を加えた全8チームで4時間先のゴールを目指す。

■予選

予選トップは開幕から3連続で#87「IDI NUTEC SYC シビック」がまたも全体のPP。速さでは完全にシリーズを席巻しており、タイムは唯一の2秒台 1'02.937。追いかける#62「WN ワコーズCLNシビック」が 1'03.420 で2番手、3番手は#450「トルネオの大冒険」1'03.517、4番手#110「DXLアライメント浜松レビン」1'03.566と上位を争うチームが並んだ。

以下5番手#106「D&M スパイクオート 106」1'04.916、6番手は初出場#2「Morix ホワイトナッツ NB8」1'07.290、7番手#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」1'07.311。最後尾は#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」、今回は出走には間に合ったもののマシンの調子が今一つ上がらないようだ。それでも 1'45.032 を記録して決勝へ出走。

■序盤

今大会も3Cクラスが全体のタイムボード上位。#87「IDI NUTEC SYC シビック」、#62「WN ワコーズCLNシビック」、#110「DXLアライメント浜松レビン」が先頭争い。その集団を#450「トルネオの大冒険」が追いかける。

#106「D&M スパイクオート 106」と#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」が中団争い、初参加の#2「Morix ホワイトナッツ NB8」も順調に周回を続ける。#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」はコースアウトなどが目立つが、主回を重ねている。

■中盤

中盤戦では#110「DXLアライメント浜松レビン」と#87「IDI NUTEC SYC シビック」がトップ争い。2時間半を経過した時点では、#110「DXLアライメント浜松レビン」が123Lapを記録し全体の首位、同一周回で#87「IDI NUTEC SYC シビック」。3番手は#62「WN ワコーズCLNシビック」121Lap、この辺りが表彰台争い。

それを追いかけるグループでは#106「D&M スパイクオート 106」117Lap、#450「トルネオの大冒険」117Lap、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」116Lap。さらに#2「Morix ホワイトナッツ NB8」113Lap、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」98Lapとなっている。

通常ならあと30分ほどでゴールを迎えるところだが、今回はなんと知っても4時間戦。さらに灼熱のコンディションとあって各チームは全く気が抜けない。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

いよいよゴールが見えてきた残り一時間、相変わらずタイミングボードの上位3台は3Cクラスの#62「WN ワコーズCLNシビック」、#110「DXL アライメント浜松レビン」、#87「IDI NUTEC SYC シビック」。順位を入れ替えながら激しく優勝を争う。3時間走ってこの3台の差は1Lap。

第2集団の争いも激しさを増す、#450「トルネオの大冒険」、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」、#106「D&M スパイクオート106」も1Lapの差の中に入るダンゴ状態。

少し差はあるが#2「Morix ホワイトナッツ NB8」、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」の2台も規定周回数はクリアできそうなペース。

■最終結果

この灼熱の4時間制を制したのは、#110「DXL アライメント浜松レビン」190Lapを走り切って見事総合トップでチェッカー。久しぶりの優勝に花を添えた。

わずか16秒差！の2位は#87「IDI NUTEC SYC シビック」、わずかに及ばずハットリックはならず。

3位は#62「WN ワコーズCLNシビック」が、中団グループの追い上げを振り切って、ポディウムの一隅に。

4位は表彰台まで1Lap届かなかった#450「トルネオの大冒険」、5位は#106「D&M スパイクオート106」、6位#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」と第2戦同様の顔ぶれが並び、7位初参加の#2「Morix ホワイトナッツ NB8」、#17「笹木自動車レーシング岩倉レビン」は嬉しい初完走で、全車規定周回数クリア。



3戦連続6位 #111



初出場 NB8は7位 #2



嬉しい初完走 #17



Race Report

GT-CAR PRODUCE



■総評

#87「IDI NUTEC SYC シビック」ハットトリックはならなかったが 65P で首位をガッチリ。追いかける#62「WN ワコーズCLNシビック」が 49P で 2 位、今回の優勝で特盛 30P を加算した#110「DXL アライメント浜松レビン」が 47P で 3 位に浮上、#450「トルネオの大冒険」44P とこのあたりは相変わらず接戦。

灼熱の 4 時間を戦って優勝と 2 位との差がわずかに 16 秒という僅差のバトル、この GT 耐久東海シリーズの醍醐味。

次戦はどんなドラマを見せてくれるのだろうか。



どこでもバトル！ ①



どこでもバトル！ ②





2連勝でランク首位に！！ #44



自己最高位 #1



やっぱり黄色いクルマ増えましたね



久しぶりの出場で表彰台 #75



「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

開幕戦は昨年チャンピオンの#19「YADOKARI シビック」が獲り、第2戦は#44「剛式レーシングシビック」が初優勝となり、ともに35Pで迎えた第3戦。

その2チームに加えて、最近速さを増してきている#1「ミュルサンヌ MR-S」と、久々の出場となる#75「シーワン N チーム」がシティでOPクラスに参加、計4チームがエントリー。

■予選

今回も予選の首位は#19「YADOKARI シビック」、1'03.157。コンマ3秒ほどの差で後ろに#44「剛式レーシングシビック」1'03.510が付ける。

3番手は#1「ミュルサンヌ MR-S」1'04.474、4番手#75「シーワン N チームシティ」1'09.714という予選結果。3番手の#1「ミュルサンヌ MR-S」は予選でのタイムアップで要注目。

■序盤

#19「YADOKARI シビック」VS #44「剛式レーシングシビック」の構図に#1「ミュルサンヌ MR-S」が割って入り、序盤の2戦とは少々違う展開。#1「ミュルサンヌ MR-S」の速さが増したことで、三つ巴の争いから目が離せない。久しぶりの#75「シーワン N チーム」がどこまで食い下がるか。

■中盤

中盤では、#1「ミュルサンヌ MR-S」が初めてタイムボードのトップにその名を刻む。#19「YADOKARI シビック」と#44「剛式レーシングシビック」も意地にかけてトップを奪い返そうとする。4位走行#75「シーワン N チーム」も自身のペースは掴んでいるようだ。

だが、4時間の長丁場はその半分にも満たない。マシン・ドライバーの状態をよく把握しての戦いがまだまだ続く。



Race Report

■終盤

残り約一時間の時点での各車の周回数は、トップ#44「剛式レーシングシビック」145Lap、2位#44「剛式レーシングシビック」144Lap、3位#1「ミュルサンヌ MR-S」142Lap、4位#75「シーワン N チーム」133Lap となっている。

周回でいえば優勝争いは上位3台に絞られてきたかに見えるが、なにしろまだまだ1時何残っており何が起きるかわからない。

■最終結果

終盤のステントを迎える頃、#19「YADOKARI シビック」に不運が…スロー走行からピットイン 155Lap を走ったところでストップしてしまう。

これでトップを盤石のものとした#44「剛式レーシングシビック」は 189Lap を走り連勝！シリーズも首位を堅持した。

2位は#1「ミュルサンヌ MR-S」で今季初表彰台を自己最高位で獲得、シリーズランキングも3位に浮上。3位表彰台は久しぶりの参加#75「シーワン N チーム」、#19「YADOKARI シビック」は完走扱いの4位という結果。

■総評

終盤までの激しい争いから#19「YADOKARI シビック」がトラブルで後退してしまったのは惜しいが、これも4時間戦の厳しさか。一方で予選から好調の#1「ミュルサンヌ MR-S」が速さを獲得してきたのはシリーズの争いに新しい波がきているのかも。次に目指すのはMRによる初優勝！

久しぶり出場の#75「シーワン N チーム」も厳しいコンディションの中しっかり完走したのが、表彰台につながった。



今回はトラブルで脱落 #19

